

科目ナンバー	C3108	要件	学則必修	授業形態	講義	対象学生	I A B I I C D
授業科目	児童家庭福祉						
実施期	後期	単位数	2単位	授業担当者	石田 雅弘		
科目の概要							
<p>保育者が児童家庭福祉を学ぶ意義を明確にした上で、今日の児童と家族を取り巻く状況や児童の権利擁護の必要性や児童福祉の基本的な組織、法体系について学ぶ。講義科目ではあるが積極的な学びとなるように課題研究も取り入れ、実施する。</p>							
							[関連DP]
ア	児童家庭福祉に関する法体系、制度、実施体制、国の動向について基本的な知識を有している。						1-b
イ	児童と家族を取り巻く状況を理解し、どのような支援策が講じられているか説明ができる。						3-c
ウ	各児童福祉の分野における支援内容や課題についての関心を深め、保育者の感性を磨こうとしている。						4-c
[授業の内容]				[実施日]	[授業時間外学習の内容]		
1	子ども家庭福祉とは何か (1) 子どもとは何か、子どもは誰のものか			月 日	シラバスを熟読しておくこと。(0.5時間)		
2	子ども家庭福祉とは何か (2) 子どもの貧困を考える			月 日	子どもの貧困 (第6-2) を読んでおくこと。(0.5時間)		
3	子ども家庭福祉を取り巻く状況 子どもを取り巻く環境とサービス			月 日	少子化 (第1章) を読んでおくこと。(0.5時間)		
4	子どもの権利保障と児童福祉の理念 権利侵害としての児童虐待			月 日	子どもの人権 (第2章) を読んでおくこと。(0.5時間)		
5	子ども家庭福祉のあゆみ (1) 保護から権利主体者としての子ども			月 日	福祉のあゆみ (第3章) を読んでおくこと。(0.5時間)		
6	子ども家庭福祉のあゆみ (2) 保護から権利主体者へミニテスト			月 日	福祉あゆみ (第3章) を読んでおくこと。(0.5時間)		
7	子ども家庭福祉の仕組み (1) 課題学習の意見発表			月 日	指定課題について学習しておくこと。(0.5時間)		
8	子ども家庭福祉の仕組み (2) 児童相談所等の機関			月 日	指定課題について学習しておくこと。(0.5時間)		
9	子ども家庭福祉の仕組み (3) 社会的養護 (児童養護施設等)			月 日	社会的養護 (第5章) を読んでおくこと。(0.5時間)		
10	子ども家庭福祉のサービス (1) 児童虐待への支援			月 日	児童虐待 (第4. 6章) を読んでおくこと。(0.5時間)		
11	子ども家庭福祉のサービス (2) DVとひとり親			月 日	DV (第6章3) を読んでおくこと。(0.5時間)		
12	子ども家庭福祉のサービス (3) 里親制度と養子縁組ミニテスト			月 日	里親 (第5章) を読んでおくこと。(0.5時間)		
13	子ども家庭福祉のサービス (4) 非行児童への支援			月 日	非行 (第5章) を読んでおくこと。(0.5時間)		
14	地域で子育てを見守る 子育てサロン等のNPO活動			月 日	地域の子育てサロンと役割について理解しておくこと。(0.5時間)		
15	まとめ			月 日	全体を振り返り、わからないことを質疑。(0.5時間)		
16	試験			月 日			
[教科書・テキスト]				[成績評価の方法]			
「子ども家庭福祉」 木村容子、有村大士編著 (ミネルヴァ書房)				筆記試験50% 毎回のレポート30% ミニテスト20%			
[参考書・教材] 必要に応じてプリント配付							
[履修要件及び履修上の注意事項]							
[履修上の遵守事項] 授業態度は当然なので加点しないが、私語、携帯、理由もなく退室などは減点対象となることを理解しておくこと。							
[連絡先・オフィスアワー]							
連絡先:				オフィスアワー:			

＜チャエックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア①	児童家庭福祉に関する法体系、制度、国の動向に対する基本的な知識。	児童家庭福祉に関する法体系や制度を知っている。	児童家庭福祉における制度、法体系等について簡単に説明することができる。	ウェルビーイングという観点から、制度や施策を志向することができる。	
ア②	児童家庭福祉に関する行政とそのサービス内容についての知識。	児童家庭福祉の行政機関を知っている。	児童家庭福祉の行政機関とその課題について説明することができる。	児童家庭福祉の行政とサービス機関の関係について、全体を俯瞰して説明することができる。	
イ①	児童と家族が置かれている現状。その課題の把握と状況に応じた適切な判断。	今日、子どもと家族が置かれている状況について、二つ程度説明することができる。	今日、子どもと家族が置かれている状況について二つ以上具体的に説明することができる。	今日、子どもと家族が置かれている状況について具体的な数字なども入れて説明することができる。	
イ②	児童の権利擁護という観点で子どもの自立までの支援を考察。	子どもの権利条約における最善の利益と意見表明権があることを知っている。	児童の権利侵害である児童虐待について、なぜ権利侵害なのか説明ができる。	児童の権利擁護のための制度を理解し、その課題を発展させることができる。	
ウ①	各児童福祉の分野における支援内容や課題についての関心。	児童福祉の分野の特徴を理解し、ひとつの分野（例えば保育）でも積極的に関わろうとしている。	児童福祉の分野の特徴を理解し、2つの分野（例えば保育と社会的養護）でも積極的に関わろうとしている。	児童福祉の分野の特徴を理解し、2つ以上の分野（例えば保育、社会的養護や障害）でも積極的に関わろうとしている。	
ウ②	各児童福祉の分野における支援内容や課題についての関心。	地域での子育て支援機関を知っている。	地域での子育て支援機関について広報誌などを読むなど関心をもっている。	地域の子育て機関について関心をもって関わろうとしている（例、ちびっこ広場等）	
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					